

長野中央病院

だより

特集

研修医

診療科を超えた指導医と  
医療スタッフとの連携で、  
使命感あふれる医師が育っています

2年目研修医・3年目医師インタビュー

NEWS & INFORMATION

わたしのまちのお医者さん

●みやじま内科クリニック

Vol. 15  
2018.7.1

■発行人／番場 誉 ■編集／長野中央病院広報委員会



# 診療科を超えた指導医と医療スタッフとの連携で、使命感あふれる医師が育っています



ばんば ほんのぶ 院長  
番場 誉 医師

## 高度かつ専門性を持った医師を養成したい

**医師には、**自分の得意とする専門性のほかに、医師であればどんな専門家であれ自分の守備範囲をこえた他の診療分野の最低限の知識や技術を合わせてもつ総合性が重要です。一人の患者さんがたくさんの疾患を併せ持つことが多い高齢者医療だけでなく、一つの疾患であってもいろいろな専門医師やスタッフが共同で治療に当たることが増えている現在、基礎的な診療能力だけでなく高度かつ最新の専門性についての知識も持った医師を養成したいというのが当院の初期臨床研修の理念です。そのため、研修医の受け持ち患者さんは各領域のスペシャリストが共同で受け持ち、その専門性を十分に発揮しながら指導にあたります。そのことで研修医はどんな疾患の患者さんであれ、その診断と治療に最後まで寄り添い自分の知識や技術をより高めることになるでしょう。研修医の研さんを確実に効率的に、そして患者さんの治療がより早く安全に進むように配慮しています。

## 総合診療だからこそ、腰を落ち着けて患者さんに向き合う

**研修医を育成する** 臨床研修プログラムは、厚生労働省でガイドラインが定められており、研修医は数か月ごとに様々な診療科をまわって実践と学びを深めています。しかし、当院では総合診療病棟を中心に初期研修を行っており、ここに一般的な研修病院とは異なる独自性があります。臨床研修プログラムの責任者である青木医師は、次のように語ります。

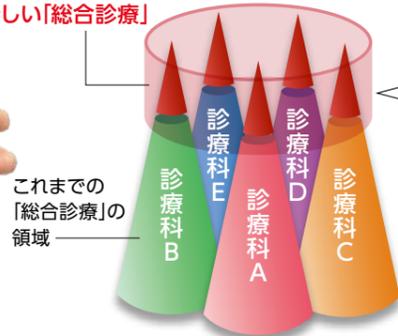


あおき りえ 医師  
青木 由貴子 医師  
臨床研修プログラム責任者

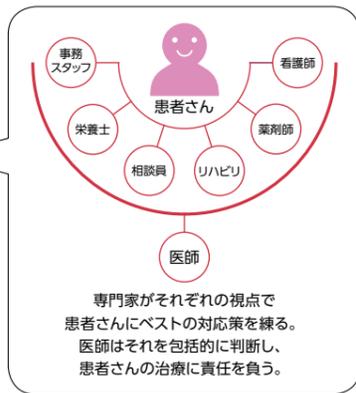
**「総合診療病棟での研修は、**その都度、循環器、消化器など専門の内科指導医がこの病棟に赴いてきます。外科、整形外科、地域医療、リハビリなどは研修医のほうから出向きますが、研修医はほとんど同じ病棟に居続け、看護師も同じ顔触れですから、仕事がやりやすいと思います。患者さんの担当医として、時には半年間以上、責任感を持って関わることのできるのです。また青木医師は、研修医と指導医の双方から話を聞いて研修内容を調整しています。

**「当院の風土** といいたいでしょうか。指導医はベテラン揃いで、研修医も素直でいい子が多いんです。プログラム責任者としては、研修医の子たちが育つ姿を見るのが楽しいですね。医学部を卒業して、右も左もわからない、卵からかえった、ひよこみたいな子たちが2年間の研修を終えると、すごく立派になるんです。そういう成長を間近に見ながら、つねに自分自身も一回り成長できるよう頑張っていきたいと思っています。」

各診療科の  
専門知識・技術を集約した  
新しい「総合診療」



これまでの  
「総合診療」の  
領域



専門家がそれぞれの視点で  
患者さんにベストの対応策を練る。  
医師はそれを包括的に判断し、  
患者さんの治療に責任を負う。

当院は、医師を育てることを重視し、大切に考えてきた歴史があります。今や当院の研修プログラムやそのサポート体制は、全国レベルでも高く評価されています。2004年から医学部卒業後の臨床研修が義務化されており、「研修医」として2年間の初期研修で様々な研さんを積んだのちに自分の志望を決め、さらに3~5年間の専門研修でようやく本人がめざす医療分野の医師としてスタートすることになります。当院では現在7人の初期研修医たちが在籍し、若い情熱で医療に取り組んでいます。

## 2年目研修医・3年目医師インタビュー



みつたけ あゆ  
光武 鮎  
医師  
[3年目医師]

こばやし てつゆき  
小林 哲之  
医師  
[3年目医師]

### 小林先生と光武先生が専門研修も当院にした決め手は？

**小林** 初期研修では、研修に携わる方々が医療に対する自分の思いを理解してくれて、実際にプログラムの内容に反映してくれました。とてもうれしかったです。3年目以降もこの病院でトレーニングすれば、もっと自分自身が成長できるとイメージできました。

**光武** 研修医として入ってみて、みんなが対等に意見を交わしながらチームで医療をやっている姿に感銘を受けました。

**小林** 「一流の医療をちゃんと届けるんだ」という指導医のプライド、高いレベルを求めていく姿勢が刺激になりました。こちらでは、患者さんに担当者として応えていくことを理念として掲げています。自分の専門外の疾患であっても、できる範囲をなるべく広げ、真摯に対応してきた歴史があります。総合診療医をめざす自分としては、学ぶべきことがまだまだ多いと感じています。

**光武** 臨床の現場で研修する中で、生活背景のなかに踏み込まないと治らない病気があって、そこにもアプローチできる病院なんだ、とわかりました。私は、小児科医をめざしていますが、子どもが健やかに育つためには、家庭や学校、地域など、環境が全部よくなるないと…と、感じています。ここで若い患者さんからお年寄りまで幅広い世代をしっかりと診療することで、社会を幅広く見るチカラが身につくかもしれない…そう思って専門研修もやはりここで続けることにしました。

### 長野中央病院（以下、当院）を研修先として選んだ理由は？

**上原** 私は長野市出身で、県外の大学を卒業したら地元で働きたいという思いが強く、こちらを研修先として選ばせていただきました。

**杉本** 私は松本市出身ですが、かかりつけ医が同じ系列の病院で、自分が医師として勉強しようというときもお世話になりました。そうした縁もあって、こちらで働かせてもらっています。

### 杉本先生と上原先生は1年目の臨床研修プログラムを終えていかがでしたか？

**杉本** 1年間を通して「やりやすさ」を感じています。それと、研修医が治療にあたるということに理解を示してくれる患者さんが多かったです。あの先生も若かったときがあって、こんな感じだったよと聞かせてくれる。こんな医師になってほしいという患者さんの思いが伝わってきて…いろいろ学べたことが大きな収穫でした。

**上原** 私たち研修医のことをよく考えてくれている内容だと感じました。初日から患者さんを持たせるとか、研修の早い段階で救急に入らせるとか、そういうストレスをかけられることがなく、私としては非常にやりやすかったです。自分は、あまりストレスに強いほうじゃないんですけど、研修事務の方をはじめ、皆さんがいろいろ調整してくださったおかげで今年も、なんとか生きていけそうです（笑）。

**杉本** 実際の研修では、自分のやりたいことがあれば、できる範囲でやらせてくれるし、様子を見て心配もしてくれました。



すぎもと りょう  
杉本 州  
医師  
[2年目研修医]

うえはら かい  
上原 魁  
医師  
[2年目研修医]



## 1年目 研修医 紹介



えんどう ゆうと  
遠藤 湧斗 医師

はじめまして。高校までの18年間を飯田市で過ごし、1年間の浪人を経て大分大学へ入学しました。飯田での生活、大分での生活、今まで多くの人に支えられてきました。そして次は私が医師として、新社会人として地域の方を支えていく番だと思っています。礼儀を忘れず、常に意欲的に行動していきたいと思っています。そして笑顔、コミュニケーションを大事にし、日々精進していきたいと思っています。



くわはら れん  
桑原 蓮 医師

駒ヶ根市出身、群馬大学を卒業しました。私は、長野県の地域医療に貢献したいという思いから医師を目指しました。今、長野中央病院という地でその第一歩を踏み出せてとてもうれしいです。この病院には利用者の方や地域の方々の声が聞こえやすいという大きな利点があると思います。そういった利点を活かして地域で求められる医療を考え、民医連医療や地域医療に貢献できる医師を目指しますのでよろしくお願いたします。



ひらの しょうだい  
平野 翔大 医師

京都府宇治市生まれ、神奈川県横浜市育ち、慶應義塾大学を卒業しました。長野は初めてですが、部活の大会で頻回にお世話になったり、知り合いの親族が多かったり、不思議なご縁のある場所です。モットーは「やってやれないことはない、やらずにできるわけではない」。一人の医療人として、地域の皆様のお役に立てる様に奮進する所存ですので、温かく見守っていただけたら幸いです。



さわ しゅんすけ  
澤 俊輔 医師

はじめまして。出身は長野市で東北大学を卒業しました。思い入れのある地元で医療をしたと思い長野に戻ってまいりました。これからの研修で学ぶことを真摯に受け止め、またアウトプットできる力を身に付け、この先医師として決断を必要とされた時に適切な対応ができるよう成長していきたいと思っています。また、糖尿病・腎透析科や精神科にも興味があるため特に重点的に学び、1日も早く仕事に慣れ、戦力としてお役に立てるように頑張ったいと思いますのでよろしくお願いたします。



こばやし  
小林 わかの 医師

出身は長野市で、群馬大学を卒業しました。大学時代は、硬式テニス部に入り、部活中心の生活を送っていました。その中で、運動することの楽しさを知り良い友人や仲間を得られた事を誇りに思っています。研修生活では、一つ一つのことに真摯に向き合い、多くのことを学び、吸収したいです。また、様々な人の支えにより、研修を行うことができるので、感謝の気持ち、思いやりの気持ちを大切に日々過ごしたいです。

## 若い医師の個性を伸ばすために…研修担当の立場から

当院の研修医たちは、様々なスタッフに支えられています。その中でも一番身近な存在として、研修担当の事務スタッフがいます。蟹澤氏と竹内氏から語ってもらいます。

「臨床研修は国の制度ですからたくさんの事務手続きが必要です」と蟹澤氏。「私たちは、その書類を整理する事務処理が第一の仕事。また研修医たちは、毎週どこかで日中の救急車対応や夜間の当直対応に入っており、その日程調整も私たちの仕事です。さらに、このようなルーティンのほかに、研修医たちからのリクエストや希望を聞いて、本人がやりたいことを可能な限り実現させようとして取り組んでいます。例えば、循環器内科の研修期間中でも、本人の希望に添って消化器内視鏡検査に入れるよう指導医に依頼したり…どのような相談でも寄り添って実現できるように心掛けています。

竹内氏は「うちの研修医たちはとても優秀なんです」と胸を張ります。毎年、全国レベルで初期研修医を対象とした『基本的臨床能力評価試験 (JAMEP)』が実施されていますが、昨年度当院の結果は「全国に数ある研修病院の中で8位でした。この好成績の秘密を教えてください」と。昨年は、当院の臨床研修プログラム責任者がJAMEPのシンポジウムに呼ばれました。最後に、「研修医たちから相談されたり、成長する姿を見るのが一番のやりがいです。一人ひとりの個性を尊重して、社会人の先輩として応援していきたいですね」と両氏は語ります。



たけうち さと  
竹内 里  
蟹澤 智  
医局事務課 研修担当

## 総合診療の場として、人生の先輩として…看護師長の立場から

当院では、より良い研修環境の実現をめざして、また時代の要請も

あって、第9期増改築工事の際検討を重ね2013年5月、4階西病棟を総合診療病棟として開設いたしました。初期研修の研修医たちは、内科の多くの診療科目をこの4階西病棟で研修することが可能になりました。また総合診療という新しい視点からのアプローチそのものに対しても期待が寄せられています。この総合診療病棟の立ち上げ当初から関わってきた藤本師長は、このように語ります。

## 「研修医の育成と総合診療をひとつにした病棟は

当時としては画期的でした。私たち看護師は、大学を出たばかりの研修医たちと2年間を接する中で、患者さんに対する挨拶やマナー、時間を守ること、普通の社会人として当たり前のことを指導するようにしています。コミュニケーション能力も立派な医師になるためには大切です。医者同士ではちょっと言えないこともあるでしょう。医者だけでは医者になれない。私たちメディカルスタッフと関わってこそ、本当の医者になれるのでは、という思いがあります」

藤本師長は、総合診療病棟で数多くの臨床現場に立ち会ってきました。

「昼間はピンピンしているのに、夜になると、なぜか熱が出てしまう。原因がわからない。そういう患者さんに対して、総合診療病棟では、一人の専門医だけではなく、いろんな角度から医師が関わってアドバイスや問題解決の提言をしていきます。患者さんの治療が進むのはもちろんのこと、研修医にとっても有意義だと思います」とのこと。

当院がめざすのは、いろいろな知識と技術を統合して、より良い医療を提供すること。その実践のひとつの形として、総合診療病棟が位置づけられています。



ふじもと とも子  
藤本 とも子  
4階西病棟 師長

News

長野中央病院で開催した行事やイベントをご紹介します。

2018  
2

- 2月1日  
卒後臨床研修評価機構(JCEP)認定  
緩和ケア全職員学習会
- 2月9・16日  
ボランティア学校
- 2月10日  
たんぼぼの会  
(乳がん患者会)新年会
- 2月17日  
りんどう会  
(糖尿病患者会)新年会



2018  
3

- 3月1日  
看護医療安全推進委員会主催学習会  
「その抑制本当に必要？」
- 3月9日  
初期研修の修了報告会
- 3月11日  
ICLS(蘇生トレーニング)講習会
- 3月12～19日  
第4回長野中央病院 医療の質・安全大会  
医療の質と安全を支えるコミュニケーション  
～職場・委員会の取り組みを発表しよう～
- 3月22・29日  
高校生1日看護師体験
- 3月26日  
保険診療学習会

2018  
4

- 4月2日  
新入職員入職式
- 4月5日  
新入職員BLS講習会
- 4月17日  
第2回長野中央病院 地域連携のつどい  
～地域に開かれた病院をめざして～
- 4月27日  
院長交代記念講演会

2018  
5

- 5月9日  
リハビリ友の会  
お花見会
- 5月11・15日  
高校生1日看護師体験
- 5月15日  
2018年度  
事業所方針案説明会



Pick Up!

4月17日  
第2回 長野中央病院 地域連携のつどい

昨年引き続き「地域に開かれた病院をめざして」をテーマに、開業医の先生方やそのスタッフの皆さん、そして当院の職員を含む総勢138人が参加して市内のホテルを会場に盛大に開催されました。

冒頭であいさつに立った番場誉新院長からは、当院の方針として、まず第1に急患を断らない急性期医療を引き続き展開していくこと、第2に専門性と総合性を兼ね備え、患者さんの生活に寄り添った医療を提供すること、そして第3に安定期にある患者さんや急性期の治療を終えた患者さんを地域の先生方と共に支え、待ち時間対策等にも一層力を入れていくことが話され、続く当院の各医師からの報告では、各診療科の特徴や特色ある取り組みなどが報告されました。また、河野恒輔副院長からは前半の報告会のまとめのあいさつの中で、参加していた3年目の研修医が紹介され、当院の研修医への指導がより充実してきていることが強調されました。

長野市医師会会長の宮澤政彦先生から、新院長の下での当院の発展について期待のごあいさつをいただいて始まった後半の懇親会は、地域の先生方や医療スタッフの皆さんとさまざまな意見や情報の交換が行われ、とても充実した時間となりました。

今回のつどいを通して、長野中央病院は今後も地域に密着した病院として、地域の先生方との連携を一層強め、双方向の紹介や相談などがより活発に行われていくことが大切であることが再認識されました。



2月1日  
卒後臨床研修評価機構(JCEP)認定

JCEPとは臨床研修指定病院において適切な研修が行われているか、研修医の環境が整っているかなど、定められた認定基準を達成しているか第三者評価する組織です。

当院は昨年、JCEPを受審し、臨床研修指定病院として高い評価(4年認定)をいただきました。今後も、研修病院として研修医がよりよい環境・指導の下で学んでいけるよう取り組んでまいります。



4月2日  
新入職員入職式

4月2日の入職式で2018年度の新入職員62人を迎えました(研修医含む医師7人、看護師35人、技術職12人、事務8人)。式では花岡理事長があいさつし、一人一人に辞令を手渡しました。

これからの業務に対する期待と不安が入り混じるなかでしたが、全員での記念撮影では、式の緊張も解け和やかな雰囲気となり、その後1週間の研修に突入しました。

組合員の皆さん、そして地域の皆さんのために1日でも早く力を発揮できるよう努めます。



4月27日  
病院発展の歴史受け継ぐ 院長交代記念講演会を開催

4月27日、研修ホールで院長交代記念講演会が開催され、約150人が山本博昭前院長と番場誉新院長の講演に聞き入りました。

山本前院長は、「長野中央病院での医師としての歩みと病院長の10年を振り返って」と題して講演。1982年の研修医時代を振り返り、厳しい糖尿病診療の指導や循環器を志すきっかけとなった症例を紹介しました。専門研修を終え、シネアンギオ装置を増資運動で購入し、1990年に心臓カテーテル治療を開始。その頃当院での急性心筋梗塞死亡率は30%くらいだったのが、2005年には5%ほどに減少したことが示されました。また、心臓血管外科開設を模索し、東京女子医科大学から医師派遣を受けて、1997年に手術開始となったこと、2001年、2005年の病院増改築工事に携わり、その中でも臨床研究にあたったことも報告されました。2008年、病院長に就任。2013年には第9期増改築が完成しました。医師不足が続く中、これからも患者・開業医の期待に応えて全人的医療と質の高い医療を提供していきたいと締めくくりました。

番場新院長は、民医連綱領にある「親切でよい医療」をみんなで共有したいと強調し、「親切」と「よい」の両立をめざそう、社会の中で患者さんや病気を根っこからとらえようと呼びかけました。患者さんの満足度をあげるのは職員で、その職員の満足度をあげるのが院長の役割と話し、皆さんの力を貸してくださいと結びました。



このコーナーでは日ごろ連携させていただいている医療機関を紹介します。

## みやじま内科クリニック



院長 宮島 浩人先生

当院は父、宮島彬が昭和45年に「宮島医院」として開業し、平成19年より私があとを継いで、平成26年の建て替えを機に「みやじま内科クリニック」となりました。

私はもともと消化器内科で、特に胃カメラや大腸カメラでの診断や癌の切除などを得意としてきましたが、所属していた医局は消化器を中心に、糖尿病代謝内科、血液内科、呼吸器・循環器内科、救急外来などを抱えておりましたので、入院・外来とも専門に特化することなく幅広い疾病を経験してきました。(注：現在当院では大腸カメラは施行していません)

当院に来院される患者さんの疾患で多いのは、高血圧・脂質異常症・糖尿病・高尿酸血症などの生活習慣病や、咳や熱・嘔吐下痢などの流行性感染症、胃や腸の不調、ピロリ菌の除菌、肝臓・胆のう・膵臓・腎臓などの精査、アレルギー疾患、舌下免疫療法、甲状腺疾患などで、やはり幅広いです。地域に密着した何でも屋(よろず相談所)を目指しておりますので、消化器やアレルギー疾患に限ることなく、「この症状は何科?」「長野市内で専門家は誰?どこに受診したらベスト?」といったご相談も大歓迎です。

町中の診療所の使命は、小回りの利きを生かした早期診断・早期治療と、必要であれば適切な時期に適切な病院へつなげることです。その点でいつも長野中央病院さんにはお世話になっております。

当院の待合室は、地域の寄合所として活用してほしいとの思いから、「町中のカフェ」を模して造られています。お近くにお寄りの際はぜひお立ち寄りください。



### みやじま内科クリニック

- 診療科目/内科・消化器内科  
アレルギー科
- 所在地/長野市大字高田1261-2
- TEL/026-227-7777
- 診療時間/[平日]午前8:45~午後1:15  
午後3:30~午後6:00  
[土曜]午前8:45~午後1:15
- 休診/水曜、土曜の午後、日曜、祝日

### 地域の診療所・医院・クリニックへの紹介を勧めています。

当院では、待ち時間の緩和や、救急医療・専門医療機関としての役割を發揮するために、症状の安定している患者さんを、開業医の先生に紹介・転院することを勧めています。

開業医の先生方には「かかりつけ医」として患者さんの日常的な治療と管理をしていただき、専門医師の診断や検査が必要な場合は、当院で受診いただけるよう連携をしています。

急病時には、いつでも当院を受診いただけますので、ご理解・ご協力の程よろしくお願いたします。



### 医学生向け奨学金制度のご案内

長野中央病院は、地域の組合員を始めとする多くの方に支えられながら、地域に根差した病院としての役割を果たすべく職員一同日々精進しています。

当院が加盟する長野県民主医療機関連合会では、私たちの医療活動に共感し、ともに地域医療、プライマリケアに携わることを希望する医学生の皆さんのために奨学金制度を設けています。

- 支給対象……医学部医学科1年生から6年生まで
- 支給額……1~3年生:月額50,000円  
4~6年生:月額60,000円

(所得制限なし。返済は貸与期間に応じて、一定期間長野県民医連の加盟施設で勤務した場合、免除されます。)詳細はお問い合わせください。TEL.026-234-3307 医局事務課 医学生担当



長野医療生活協同組合

長野中央病院

〒380-0814 長野市西鶴賀町 1570  
TEL.026-234-3211 FAX.026-234-1493  
http://www.nagano-chuo-hospital.jp/

